

会 議 録

会議名	第6回丸亀市総合計画審議会
開催日時	平成29年12月14日(水) 10:00～
開催場所	丸亀市役所 本館2階第3会議室
出席者	<p>出席委員 井原理代、森茂、立山雄一、岩崎正朔、久保田英俊、佐久間知恵、藤田裕子、山下多加子、桑田桃子、佐藤常光、直井敏彦</p> <p>欠席委員 逢坂十美、小池よう子、佐々木美紀子、浦山夏穂、森岡翔哉</p> <p>事務局 市長公室長 山田理恵子 (市長公室政策課) 課長 山地幸夫、副課長 富士川貴、総括担当長 志村芳隆、主査 宇野大志郎</p>
議 題	<p>1. 第二次丸亀市総合計画 素案について</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
山地政策課長	ただ今より第6回丸亀市総合計画審議会を開会します。本日の配布資料の確認をさせていただきます。議事の進行は、会長にお願いいたします。
井原会長	<p>議事に入ります前に、本日16名中11名の委員のご出席をいただいておりますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき、会議が有効に成立していることをご報告しておきます。</p> <p>まず、議事の1「第二次丸亀市総合計画素案」について事務局より説明をお願いします。</p>
政策課 宇野	<資料に基づき説明>
井原会長	まず、第1部の方でご意見はございますか。
直井委員	SWOT分析のところですが、地域コミュニティの活性化が強みである一方で、自治会加入率や加入者の意識の低下は、弱みあるいは脅威に属すると思います。また、香川県全体に言えることだと思いますが、若者の流出も、弱みや脅威として入れるべきだと思います。
井原会長	前者の方は、事務局の説明にもありましたが、そのような趣旨に沿って表現を修正するようになっていただきたいと思います。若者の流出についても、確かに明確な表現としてはないので、事務局の方でご検討いただければと思います。

	<p>次に、第2部の方にまいります。前回の審議会のご意見にもありましたが、将来像の設定にあたって大事にしたい点について、「市民が主役」のなかで、市民が原動力である趣旨の記述を加え、また、将来像の説明のなかで、市民が自分らしくいきいきとかがやくまちという表現に、委員の皆様のご意見を込めたということですが、いかがでしょうか。</p>
岩崎委員	<p>この内容にあるとおりのことを、それぞれのコミュニティの代表者になる人は自覚して欲しいと思います。地域のあり方を議論するなかで、何もかも行政依存で物を言うのではいけません。数年のうちには、このような意識を持ったリーダーが出てくると思います。</p>
井原会長	<p>最後の第4部「計画の推進」でも、協創と協働とまちづくりとして、そのような意味合いを強調して表現されていますので、審議会の総意も込められているかと思えます。</p> <p>それでは、第3部の基本計画ですが、非常に細かく成果指標を設けられていることは丸亀市の計画の特徴だと思います。ご意見はございますか。</p>
直井委員	<p>「心豊かな子どもが育つ」の基本方針のなかで、出生数がキーワードになっていますが、地方の夫婦にとって、大学に進学する際の経済的な事情も問題になっていると思います。国が都市部の大学を制限しようという動きは理にかなっていると思いますし、それに呼応して地方も高等教育に力を入れるべきだと思います。大学の誘致については、基本施策「行政運営の最適化」のなかで、そうした意味合いを含んでいるとのことですが、「心豊かな子どもが育つ」ための一要素として位置付けて欲しいと思います。</p>
井原会長	<p>地方の基礎自治体が大学を誘致することがいかに難しいか、皆様もご認識されているかと思いますが、一方で高等教育が必要であることは確かなことだと思います。</p>
森副会長	<p>県内の大学数の状況や、隣の善通寺市や宇多津町にも大学があるというなかで、さらに丸亀市に大学をとすることは、計画に記載しにくいと思います。</p>
直井委員	<p>京阪神や首都圏に出て行く割合が多いのが現状です。</p>
富士川副課長	<p>香川大学をはじめ、県内の大学では、地元の子どもたちが地元の大学に入って、さらに地元で就職してもらうことを念頭に置きながら、自治体とも連携し様々な取組みを進めています。丸亀市でも、このような取組みが地域の活性化につながると考えており、先ほどの「行政運営の最適化」のうち、大学等との連携の強化に関する記述にそうした意味合いを込めています。</p>

山下委員	<p>丸亀市の総合計画は、現実化していかないといけないという具体的な目標だと思えます。大学を誘致して、地元の就職率を高めるとのご意見はもつともだと思えますが、それを計画に入れるとした場合、地域の大学と連携して地元での就職率を上げるとするのが落としどころで、大学誘致という表現まではどうかと感じます。</p>
山地政策課長	<p>総合計画基本計画の4年間で丸亀市として実行していかなければならない、現実的な状況を踏まえたと、地元の大学と連携し、地に足を着けた取組みを進める必要があると考えています。大学誘致については、そのような話があればもちろん丸亀市として誘致を望まないというわけではありませんが、4年間の取組みとして現実的に取り組めるかどうかを考えますと難しいと感じています。</p> <p>高等教育機関は、県や国、私立などが担っておりますが、義務教育までの期間は、市の権限として取り組めますので、その期間における施策が中心になると考えています。</p>
立山委員	<p>私どもの四国職業能力開発大学校も、市内にある大学校として、丸亀市と連携しながら地元就職につながる取組みを進められればと考えています。</p>
井原会長	<p>四国職業能力開発大学校があることは、丸亀市の特徴だと思えますので、大学連携の記載に、個別具体的な表現として学校名を加えてはどうでしょうか。また、「地元の」という表現を加えることで、地元で教育を受けてもらいたいという思いが伝わるのではないかと思います。</p> <p>最後に計画の進行管理ですが、ややもすれば形式的になりがちな部分ですが、きめ細かい進行管理を示していただいていると思います。その他、全体にわたってご意見はございますか。</p>
立山委員	<p>施策の体系図のなかで、重点プロジェクトに該当するページを加えてはどうでしょうか。</p>
政策課 宇野	<p>見やすくなるよう検討させていただきます。</p>
井原会長	<p>それでは、現段階では、審議会として今回の素案を了承するという事によろしいでしょうか。計画策定にいたるまでは、まだ市議会やパブリックコメントなどの手続きを控えていると思いますが、事務局から連絡事項はございますか。</p>
政策課 宇野	<p><今後の日程について説明></p>
井原会長	<p>それでは、以上を持ちまして本日の会議を終了します。</p> <p style="text-align: right;">(会議終了)</p>